

子ども・若者の生きづらさと自己肯定感

心理臨床家 高垣忠一郎さん

私が提唱してきた「自分が自分であって大丈夫」という自己肯定感はある部分的な性能の良さを評価して自分を肯定するものではありません。丸ごとの自分の存在「在るがまま」が肯定されるのが自己肯定感です。そのような自己肯定感のことを「人生の浮き袋」だという言い方もしてきました。育てたい(膨らませたい)ほんものの自己肯定感、ダメなところが一杯あるけれど、それを抱えながらも一生懸命に生きて存在している「在るがまま」の自分の存在を肯定する自己肯定感です。有能な人材になって「どんなものだ！オレはすごいだろう」と鼻を高くするような「自尊心」や「自負心」ではなく、人間として「人生の主人公」である大人として自立していくことが可能な本物の自己肯定感であると考えます。

しかし今、多くの子どもや若者達はそうした自己肯定感をもてず、むしろ自己否定の心にさいなまれているのです。何故でしょうか？

子育てや教育畑などでは「子どもの良いところを見つけて認め、褒めてやって自己肯定感を伸ばしましょう」というようなことがよく言われます。褒めることを否定するわけではありませんが、落とし穴があることも知っておいてほしいのです。競争社会での教育や子育てにおいて、私たち大人はいつの間にか比べ癖のついた目で子どもを見てしまい、丸ごとの姿を見失い、評価できる部分にのみ注目しがちです。すると、子ども達は、親や周りの大人の期待に応じて褒められるようなことをすることでしか安心できず、失敗を過度に恐れたり、期待に応えられない自分自身を拒否するような事態に陥ることもあり得るのです。彼らはしんどい、つらいことがあっても中々人に打ち明けることができません。こういう状況に置かれている子どもにとっては、褒められる体験よりも、失敗したり挫折した時に「大丈夫だよ」「それでもいいんだよ」と赦される経験をする方がはるかに大事です。私の言う自己肯定感(人生の浮き袋)を子どもの心の中に膨らませてやれるのは、周りの大人、多くは親でしょう。愛の息吹を吹き込んでやることです。競争社会の中で、親もまた評価され、心に余裕がない状況に置かれ、子どもに対しても「これではダメだ」と焦りや不安のまなざしを向けているのではないのでしょうか。それでは自己肯定感膨らまないだろうと思います。

「個人」とは部分に分割されない「丸ごと」の存在です。かけがえのない人生を生きる主人公であり、権利主体です。それを尊重するということは、まずは一人ひとりの主体がこの世界をどのように見、どのように感じているかを、その目線に立って見てみよう、感じてみようとする努力することです。私たち大人は、つい先回りをしがちですが、子どもが感じていることに共感的に耳を傾け、寄り添う関係性の中でこそ、子どもはあるがままの自分を見てもらい、愛され、理解されると感じられるのです。「自分が自分であって大丈夫」という自己肯定感がふくらむのです。

(お話し中の「自己肯定感」の部分を中心にまとめた(文責:事務局)

講演のあと、春日井さんと対談してもらいました。

・つい先日の文科省から、不登校児童・生徒数が10年連続で増加し、30万人近いと報告があった。コロナ禍による生活環境の変化や生活リズムの崩れ、対人関係の変化などが要因としているが、表面的だと思う。一つに、コロナ禍のために学校が一斉休校の措置が執られた時はちょうど卒業式・入学式の時期だった。人生のステージが代わる大事な時。「さようなら」と「こんにちは」をきちんと出来なかった。

・競争社会における人材教育で子ども達を部分に切り分け、評価してきたはずみは不登校の問題だけにとどまらない。いじめも同じだ。あるいじめ加害の子は「幸せそうだったから」いじめたという。大人の事件でも同様のことが言われていた。現代の競争的な社会システムでは薄っぺらいエゴによって表面的な評価を求め、得られないと他者を妬んだり恨んだりするようなことになってしまっている。そうした価値観がいじめを生み出すことにもなるのだろう。ジャーニズの性加害報道などもまさにそうしたものだ。「自分を高く売り出すため」という、人間を商品化したような在り方だ。こんな社会は狂っているのではないか。憲法13条にあるように全ての人が個人として尊重されるような社会に変えていきたいと切に思っている。

・子どもの問題行動は単に社会を乱す行動というのではない。自分の中に問題が起きているんだと警報を鳴らしているという捉え方もできる。大人は何故、警鐘を鳴らしているのかと考えて、関わっていくことが大切だ。

(高垣さんご発言をまとめた(文責:事務局)

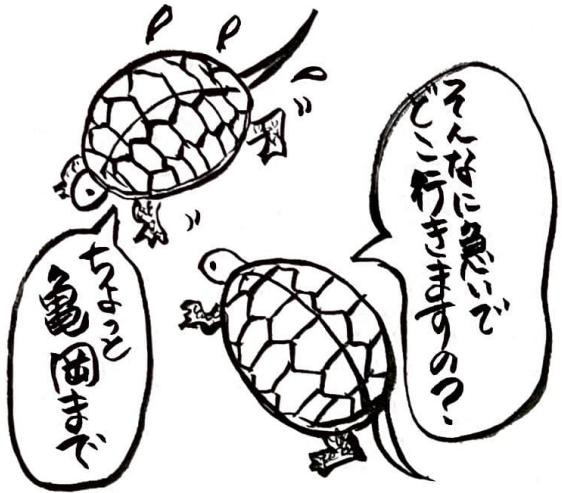
おはようございます。つらい2日目です。

2日めからご参加のみならず、ようこそ！ 速報1〜3号は受付右ほしにあります。

お弁当は分科会ごとに配ります

申し込んだ方はお弁当を世話人にお渡し下さい



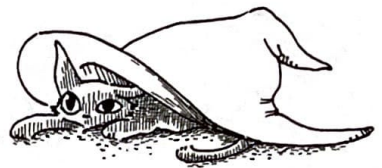


ガリラヤ亀岡までのバス

朝、亀岡駅に行ったら、公的なバス路線では1時間に1本!! エー!!

と、その時、送迎バスが停まるのに気がつきました。ピストンで私たちのためにバスを出してくださっているとのこと。大感謝でした。
(東京・スタッフ)

「つどいの再開」
つどいが再び開催されましたこと、よかったです。ありがとうございました。(家族)



見えない苦しみや悩みを意識する機会

采年から、教員となる立場として現代の子どもたちの見えない苦しみや悩みを意識する機会となりました。子どもの頃の自分をふりかえり、考える機会ともなりました。子どもが周りにある評価に関わらず、子ども自身の心の声、行動に向き合える教員になりたいと思いました。(学生)



オープニングと記念講演で心が浄化されました。

私は幼稚園・保育園の先生を目指し日々大学で学んでいます。そこで、「自己肯定感」の言葉や大切さを授業でよく聞いています。「ただ寝るだけではない、非認知能力を上げるんだ」など、細かく教えられています。どのようにすれば肯定感をもてるのか全く知らず、なんとなく寝れば、否定しなければいいとしか分かっていませんでした。

また、私自身大人になってからの人間関係で、自分の認知のゆがみ悲観的な部分に悩まされ、友だちを失うこともありました。

自分のためにも未来の子どもと関わるためにもとても大きな学びにすることができました。

先生の声や考え方がとても優しく涙が……。心が浄化され温かい気持ちになりました。(学生・京都)

わすれもの

分科会会場から届いています。



様々な立場の人が参加した分科会

想像以上に、様々な立場の人が参加した分科会で、お話しされる内容ひとつひとつに考えさせられ、また、胸をうたれました。もっともっと当事者の声をきく必要を感じたひとときでした!

机上では学べないもの

親の声は強い!
机上では学べないものばかり頭が下がります。
(教職員・)



ホッとする時間の大切さ



マリンバの音色にリラックスできました。改めてホッとする時間の大切さを感じました。(行政)

一人ではない

同じ立場、気持ちの親同士話しあえ一人ではないと思い、心が落ち着きました。
(家族)

